

## 細川周平『近代日本の音楽百年』書評の概要

立命館大学 先端総合学術研究科

西澤忠志

tknnszwtds@gmail.com

### 1 書評の概要

『近代日本の音楽百年』はそれまでの近代日本音楽史研究と比べて、何が新しいのか？

→堀内敬三『音楽五十年史』との比較を通じて明らかにする

∴西洋音楽だけでなく日本音楽・流行歌を視野に入れた近代日本音楽史<sup>1</sup>

### 2 堀内敬三『音楽五十年史』の書誌情報

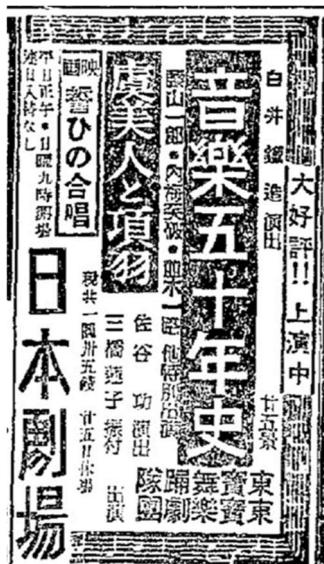
・1942年に鱒書房の「新日本文化史叢書」の1つとして刊行(1948年、1977年再版)

・内容：近代日本音楽史(西洋音楽受容・日本音楽史・大衆音楽史)の成果+座談会・インタビュー+堀内の経験をもとにした、黒船～戦中(敗戦)までの日本音楽史

・反応：中山晋平「本書の三分の二を占めてゐる明治音楽史はわが国楽が如何にして基礎づけられたかを知る上の絶好資料であると共に音楽を通じてその頃の世態の変転を窺ひ得て興味ふかいものがある<sup>2</sup>。」

※日本劇場での《音楽五十年史》公演(内容は不明)

『東京朝日新聞』夕刊 1943年8月21日2面



白井鐵造(演出)《音楽五十年史》『東宝十年史』(1943)頁数無し



<sup>1</sup> (細川 2020, vi)

<sup>2</sup> (中山 1943, 4)

### 3 比較

	堀内敬三『音楽五十年史』	細川周平『近代日本の音楽百年』
時代区分	明治・大正・昭和 (特に明治時代の記述が多い)	画期となる出来事、メディアの変化 (元号による区分を前提にしない <sup>3</sup> )
問題意識	「新しく美しく力強き日本の音楽」 のあるべき姿を見出すために、音楽 の過去、社会生活、国民思想とのつな がりを示す <sup>4</sup>	「洋楽受容」が明治の軍楽隊・音楽取調掛～コン サート音楽への一本道しか見ないことへの反発 <sup>5</sup>
語り(文体)	自身の体験や実感に基づく、簡明・平 易な記述	簡明・平易な記述、洒落も入る
比較	アメリカの音楽文化との違い	日本の独自性ととも、アメリカの音楽文化との 共時性を取り上げる
西洋音楽への 「大衆」の態度	「高級」な西洋音楽を自然に愛好	自身の感性に合わせる形で受容
芸術音楽と大衆 音楽との関係	別々に捉える	合わさった実践を視野に入れる (e.g., 藤山一郎、古賀政男 etc.)
「音」、「音楽」と の関係	「音楽」 > 「音」	「音楽」 = 「音」(リズム、オノマトペ、囃子詞の 重視)

#### 4. 何故この違いが生まれた?…背景としている思想の違い

堀内…進歩史観(社会とともに音楽も「近代化」=「西洋化」)

→同時代の「近代化」(西洋化、芸術化)した音楽文化への肯定的評価

(⇔西洋文化の悪い面を受け入れたために「墮落」「俗化」した流行歌への批判)

細川…民族音楽学の知見

ネトル (Bruno Nettl, 1930 - 2020) 『世界音楽の時代』(1989)

原題: *The western impact on world music* (1985)

→土着文化と「西洋」音楽が混ざり、多様化した音楽文化への肯定的評価

<sup>3</sup> 特に「大正」を「日露戦争後から関東大震災」までの期間と捉えている点は、蓮實重彦による時代区分とも共通する(蓮實 1998, 178)。

<sup>4</sup> (堀内 ca1941, 6-7)

<sup>5</sup> (細川 2020b, 369)

5. まとめ『近代日本の音楽百年』の西洋音楽受容史研究での意義

- ① 音楽史における対象の拡大…音、リズム、文学、踊り etc.  
→感性史としての「音楽史」
- ② 一貫した歴史観（トントン史観）の提示
- ③ 「能動的」な存在としての「大衆」像の提示（大衆文化史としての側面）
- ④ 「上から」の西洋音楽受容史でも「下から」（民衆史）の日本音楽史でもない、両者を糊付けする中間点としての「大衆音楽史」

6. 疑問

- ① 「日本」（ひいては東京）という地域を設定する理由…「トントン史観」の範囲は？  
（music ではない「音楽」"Ongaku"の個別性にも関わる問題）
- ② 「近世」「近代」を架橋する「オノマトペ」（リズム的感性）の可能性  
e.g., 楽器の大衆化、楽器の音を擬音語で表現できるツール（「唱歌」）の獲得、楽器の音が日常生活に溢れたことによる、江戸時代での擬音語（太鼓、三味線、笛）の増加<sup>6</sup>
- ③ 現在（2020年代）の音楽文化（「現代社会」）とのつながり・問題意識

参考文献

中山晋平 1943「堀内敬三著「音楽五十年史」」『東京朝日新聞』1943年4月14日

浅田彰、柄谷行人、野口武彦、蓮實重彦、三浦雅士 1998「大正批評の諸問題」『近代日本の批評 3』東京：講談社

堀内敬三 ca1941「「音楽五十年史」の内容」『新日本文化史叢書 内容見本』東京：鱒書房

細川周平 2020a『洋楽の衝撃 近代日本の音楽百年——黒船から終戦まで』東京：岩波書店

——2020b『ジャズの時代 近代日本の音楽百年——黒船から終戦まで』東京：岩波書店

山口仲美 2019「楽器の音を写す擬音語」『山口仲美著作集 5 オノマトペの歴史 1』東京：風間書房

---

<sup>6</sup> （山口 2019, 344-346）